



馬ひもいさ利

馬ひもいさ利

う縁うり宗の事

う縁うり宗の事

一 混りの位一の事

十方佛土中ユイウ

一宗法無二益言三諸

佛方便説

是との混の深き徳の事

是との混の深き徳の事

是との混の深き徳の事

是との混の深き徳の事

是との混の深き徳の事

是との混の深き徳の事

是との混の深き徳の事

巻前 月付声付きく 繁く
掛へし 深き沼へくを 舟の
つらき 木田あしを 河せき 舟亦
箱蓋のおもき 舟と 通下し
小松糸の 鞭打 打へし

かんせき 伝へし の文

そ 小浜 舟の 文

川 越の 文

上 板の 文

り 板の 文

木 立 舟 船の 文

拾 物 舟の 文

茂 舟 通の 文
長道具 上 手 細ノ
先内 正石 突 ヲリ 通ニテ
石 突 鐘 踏 足 ヲリ 内 鐘ノ
中ニ タツル

物 見 馬の 手 綱 舟 乗

小 中間の 文

交

馬 舟の 手 綱 舟 乗

繫 舟の 手 綱 舟 乗

手 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 竹 金 ヲ 左 右 組
透イテ 文字 大ニ 如ク ロニ カマ
セテ 示

右 同 前

切 舟の 手 綱 舟 乗
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

手 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

舟 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

舟 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

舟 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

舟 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

舟 綱 切の 文
切レタラハ 手 綱 舟 馬ノ 脂ニ
打 掛テ 示 乗

カ華社の年 通ニテ手廻先ヲカハス川筋ニテ鏡ヲ踏テ乗

一 尻かひ切レの年 川馬之尾ヲ後ノ塩子ニムスビ付ル

一 前輪刻レの年 川繩ニテ三バリ乗

一 後輪の刻レの年 同前

一 武具下の鞆のかつた糸の年

是ハキビスヲ踏ニテ則キビスニテムル也

一 野中の一葉の年

一 手負多る馬ハテヨ日守物有る年

一 だん腹の年 七五三

一 軍陣の年 七五三

一 敵有り折向く可切鞭の年 七五三

一 敵有り折向く可切鞭の年

ラ

大古又之口傳多シ

下ヲトガイ大キニヤワラカナルハ上馬之

心ヨシ口傳多シ同アミハホワクニテ上

二心三躰 四血五主

段積之次第

此馬ニサケテ所之見所有

一 三 一段 六 二段 九 三段 十二 四段 十五 五段 十八 六段

リ十七迄アレヒ五段之内何モ二段ヨリ同前之事
ニ位サ一迄ツマリテモニツラナケレハ六段ノ
内ニサ一之見所有リテモニツラノ内一
生クレハ七段之馬ニ

一 七段ノ馬ニツラニツノ見所有リセイカイ

一 ヲ仰タリ深サノツラニ又又ニ廻四寸ニ

一 マ目ヲウツフケタル如ナル折ッラヨシ

一 已トミタルハダヅラ之何モ目ノ下ニ肉少

一 モニキヲ上トス見分様大支

一 平馬ニサ一之見所有三段四段トマ

ヲ仰タル深サノツラニ又エシ廻四寸
一ツ目ヲウツフケタル如ナル疥ツラヨシ
已トミタルハダツラ之何モ目ノ下ニ肉少
モ云キヲ上トス見分様大支

一平馬ニサ一之見所有三段四段トマ
キル、ホトニハヤキ馬アリ其見様
口傳々多シ

一人喰骨面ニ有人喰トハ目頭ヨリ
出ル筋之口ノサケ目ヨリニツセ置テ
ムスヒサカリヲトカヒエ廻之

一切レ馬スマイ惣様曲馬ハツラノミケ
ノ过ニ見様有リ其故ハ月初生ル程
过サカル是ハ上々ナリ月末程过次第
ニアカル之其多ハ必曲多有ニ

一東西駒之ツラニ数多之見所有傳々
段之馬ツリ合次第の事

一上頸長胴短キ馬ハ一ツリ合之事
タトエハ胴長クハ首短トモ早キ支又
同前ニ胴長キ馬ニモ理有ト越或
ハフケ河強キニ雖然セ令寸迫ハ不吉ニ
一後節高ク前股ノフシ下カリテ付ハ
是モ一ツリ合支

一後股之踏付廣ク前ノ肢ノフシ付
セバツ踏キ一是モ一ツリ合ノ支

一三寸ノ身ハ三寸五分六分迄モ三寸内
一五寸ノ身ハ四寸五分迄モ五寸之内
一口ノサケ目ハ二寸切タル馬ハ大人ヲ以テ

一唇口馬ト云ハサ一之ツリ合一ツモナクテ
ヲク歯口正出テ其ニ響ヲ擗頭ヲニテ
走ルヲ唇口馬ト云之左様之馬ハ至ヲ
不知海川ヲイワス人ヲ川殺馬ニ

はるかに三の巻よ

福を以て鞭に添ふ

馬を以て何とぞ

志を移しけり

それこそ

に

あ

人

行

く

人

人

と

手

の

駒

口

く

響

出

ひ

手

は

ひ

く

たや留時いふははきくを

志川中流時河川

たふらいつと津乃口傳人塔

一子一書くくはのれ

人費りきくはの鞭さそ

志さぬ馬りあめといふ鞭

手場さあのうあふ

あひまといはあは

ひるあぬささあは

いふらん

口のうらつらさ

そこ海

口のうらつらさ

人もそい

二とと記より

三ツ

何とと書や氷と

とく水をおれ

右け哥うま

得道の哥うま

そ又口の九

そよも

公入

具大記之

安永四年

未少日吉祥旦

右に哥の字小中の何れは
得道の哥の字を以てする方
を又口の九糸と覚え得ん
をよも成ぬと申しは
公入の字奥書下巻
具記之

安永四年

未少日吉祥旦

山縣和年



井高政記版
冬